

令和4年度エコパークあぼしモニタリング確認・評価会議記録要旨

- 1 日時 令和5年7月13日（木）午後2時00分から午後2時52分まで
- 2 場所 姫路市立網干環境楽習センター1階エコパークあぼし会議室
- 3 出席者 高田光康氏、松村千里氏、武尾正弘氏、毛利好孝氏、長澤守氏
事務局：福田農林水産環境局長、清水所長、鷹家課長補佐、小林係長、船田主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題
 - (1) モニタリングに係る調査結果と評価について
 - (2) 令和5年度調査等のスケジュールについて
 - (3) その他

会議記録

発言者	内 容
事務局	<p>排水水からは、鉛、ヒ素、セレン、ホウ素、フッ素、アンモニア、ダイオキシン類を検出しているが、いずれも基準値を下回っている。少し気になる点としては、排水水2のアンモニア類ですべての回において、それぞれ23mg、38mg、30mg、29mg、排水水3のダイオキシン類ですべての回においてそれぞれ1.7pg、7.9pg、1.4pg、0.22pgと少し高い数値を測定している。</p> <p>海水の調査結果は、ヒ素、セレン、ホウ素、フッ素、アンモニア、ダイオキシン類を検出しているが、基準値を超える物質はない。</p> <p>地下水位は、網干港水位より高水位を保っており、地下水のpHは5.8～8.0の範囲であった。</p> <p>ガスの測定については、No.3、5、17、20、21、23で5%を超えるガスを測定しており、特にNo.21では依然高濃度のガスが発生している。</p> <p>地盤沈下の測定は、定点測定の結果、目立った沈下は認められなかった。</p>
意見 <small>(水質について)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 排水水2のアンモニアの数値について、自然由来の可能性は低く埋立物由来の構造的なものかもしれない。基準値以下の数値であり引き続き経過観察したい。大別濃度がわかれば由来を類推できるかもしれない。 ● ダイオキシンについて、基準値以下ではあるが気を付けなければならない。PHの値がわかれば滲出水の出所を類推できるかもしれない。また、クロマトグラムを提供していただき精査したい。 ● 採水時の写真と採水した検体の写真を添付していただき分かりやすかった。引き続き可能な範囲で提供いただきたい。
意見 <small>(水位等について)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的に経過観察をしており、ほぼ変動の範囲内と読み取れ、特段大きな変化は見受けられない。
意見 <small>(ガスについて)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 概ね例年の変動の範囲内である。 ● 一部高い数値の場所があり、まだ地中にはガスの発生が盛んなところがあると思われる。ただ、対策工事により危険を孕むようなガスは集められ、逆に言えば適正に排出されているとも言える。引き続き長期的なモニタリングをお願いしたい。 ● 施設の供用開始より10年が経過し、モニタリングデータを意識して施設の改修工事等を発注するなど地元に対し安心した状態での運営をお願いしたい。
意見 <small>(地盤沈下について)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● ほとんど変動がなく、今後も継続的な監視により確認をお願いしたい。
意見 <small>(R5年度調査)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き可能な範囲での採水時と採水した検体の写真撮影とPHの測定をお願いしたい。